

大麦管理特報

令和6年9月
黒部市
黒部市農業技術会議

大麦の収量・品質確保には、排水対策の徹底が重要です。
稲刈り後、直ちに額縁排水溝を設置し、ほ場の乾きを促しましょう。
あわせて、適期のは種作業により苗立ちを確保しましょう。

1 排水対策の徹底

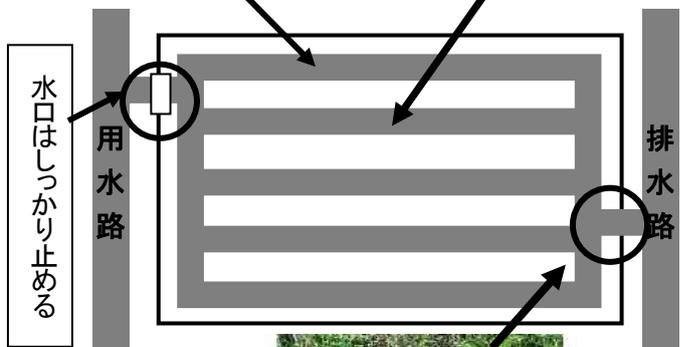
- ・額縁排水溝と基幹排水溝を設置しましょう。
- ・トラクタの車輪跡などに水がたまらないよう、ほ場が乾いた状態で作業を行いましょう。
- ・溝は連結し、途中で水が停滞しないように手直しを行い、排水口を深く掘り下げましょう。



額縁排水溝は
早めに設置



基幹排水溝は
7~8m間隔で設置



排水口は深く掘り下げ、
確実に連結

2 土壌改良資材の施用

酸性土壌では大麦の生育や登熟が不良となるため、pH6.0~6.5を目標に、確実に石灰質資材を施用しましょう。

○石灰質資材の施用の目安

資材名	施用量(kg/10a)
珪酸石灰	100~200
チャンピオン	60

※作付前の土壌 pH が低い場合(5.5 未満)は、施用量を増やしましょう。

3 種子消毒の徹底

雲形病などの発生を防ぐため、必ず種子消毒を行いましょう。

防除法	処理方法及び注意事項
薬剤粉衣	ベンレート T 水和剤 20 を乾燥種子重量の 0.5% 粉衣 (種子 10 kg に水 200ml、薬剤 50g を入れて均一に混和する。)
循環式催芽器	45°C の温湯に 2.5 時間浸漬する。(時間厳守)

※「循環式催芽器」で温湯消毒した種子は、過湿による発芽障害を防ぐため、消毒後は、水をよく切って乾かす。

【裏面あり】

4 適期は種作業の実施

良好な出芽・苗立ちを確保するため、は種は10月上旬までに実施しましょう。ほ場が乾いた状態で、「耕起・施肥・は種・作溝」の一連の作業を1日で実施しましょう。

(1) 耕起・畝立て

- ・耕起作業は、トラクタの速度を低速にし、できるだけ土を細かくし、碎土率60%以上を確保しましょう。乾きが悪いと土を練ってしまい、碎土率があがりません。

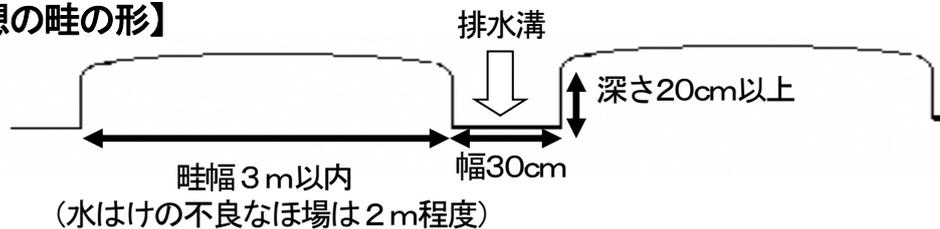
※降雨などの土壌水分が高い条件での播種は、苗立不良や初期分けつの減少につながるため、慌てず、土が乾くのを待ってから播種を行いましょう。

- ・畦幅は3m以内とし、排水溝（幅30cm、深さ20cm以上）を設置して、排水口に確実に連結しましょう。

乾かない状態で播種すると…



【理想の畦の形】



(2) は種量の厳守、適正なは種深度の確保

- ・は種量を厳守し、適正な苗立数を確保しましょう。苗立数が過剰になると茎が細くなり、品質低下の原因となります。
- ・は種深度は深さ3cm程度としましょう。は種深度が深いと生育が不揃いになるとともに、湿害を受けやすくなります。

○播種量の目安

は種時期	目標苗立数 (本/㎡)	は種量(kg/10a)	
		ドリル播	表面散播
9月6半旬	140	6.0	6.5
10月上旬	150	6.5~7.0	7.0~7.5
10月中旬	200	8.5	9.0

適正なは種作業で、苗立数を確保する！



(3) 適正な基肥の施用

基準基肥量を参考に地力に応じて加減しましょう。

○基準基肥量

区分	肥料名	施用量(kg/10a)
ドリル播	エコ大麦44号	45kg
表面散播	BB 特15号	40kg

(4) 除草剤の散布

雑草が繁茂すると肥料成分が収奪され大麦の生育が抑制されることから、除草剤の適期散布により雑草防除を行い、初期生育を確保しましょう。

薬剤名	10a当たり散布量	散布時期	使用制限
リベレーターG	4~5kg	播種後~麦2葉期	1回のみ
リベレーターフロアブル	60~80mL(希釈水量100L)	播種後~麦3葉期	